

令和3年度 事業報告書

自 令和3年 4月 1日

至 令和4年 3月 31日

特定非営利活動法人 地球学校

I. 総括

地球学校はNPOになって21年目の年でした。コロナ禍2年目はオンラインによる交流が日常になりました。スタッフや理事の小規模の会議だけでなく、20名を超える活動会員との定例ミーティング・交流会・勉強会も定着しました。日本語教室のレッスンも、地球っ子教室の学習教室も、小学生から80代まで幅広い世代であってもオンライン化が可能になったのは、参加者各自の前向きなご協力があったことです。

活動資金となる助成は2ついただきました。「東急子ども応援プログラム」の助成は、地球っ子教室の日々の運営資金として子どもたちを支える大きな力になっています。「ベネッセこども基金」の助成は、地球学校の資金力では実行できないオンライン学習教材に取り組んでいます。

日本語教室では、コロナ禍2年目もオンラインレッスンが100%となりました。全体として学習時間はコロナ禍以前の水準まで戻りつつあります。オンラインレッスンでは1回あたりの時間は短いものの頻度が多くなる傾向があるためです。また、複数名でレッスンを担当するチームティーチング形式でのレッスンも増えました。役割を分担しつつ互いに協力し合える利点もあります。横浜刑務所での日本語レッスンは、担当者の交代がありましたがNPOとして継続中です。日本語教師のための勉強会は、オンラインのスキルを学ぶものからレッスン内容を考えるものへとシフトし、活発に意見交換ができました。事務的なやりとりについては、地球学校全体でICT化を推進する中、日本語教室でも報告書の提出方法や資料の共有などでICT化を進めています。

地球っ子教室では、毎週土曜日に開催している土曜教室において、「対面教室」と「オンライン教室」の2つの教室を同時開催することが定着し、子どもも支援者もオンライン開催が日常になった年でした。そのため、参加した子どもは延べ490人に上り、昨年度比220%増です。コロナ感染予防のためオンライン参加を望む家庭がある一方で対面教室を望む家庭も多く、選択肢があることの大切さを実感しています。イベント「漢字王決定戦」は計2回、ハイブリッドで開催しました。12月には大学生主催の持ち込み企画「ともだちサンタ」に地球っ子教室として参加し、日本人の子どもたちと交流しました。内部研修は計3回、やさしい日本語と教材のリライトを実践しました。運営委員会は計2回、有識者を3名招いて行いました。事務的なやりとりについては、子どもの保護者による参加予約も支援者の参加希望申請もフォーム入力定着し、教室記録の保管や情報共有はクラウドへ移行し、紙媒体からの離脱が進みつつあります。

多文化交流事業は、コロナ禍で制限されることが多い一年でしたが、オンラインのおかげも少なからずあり、NPO内部の交流会は参加人数が増えました。12月の寄付月間では、継続して日本大通実行委員会に参加し、賛同企画としてオンラインイベントを開催しました。今年度のかながわ市民活動フェアは、年明け1～3月にウェブサイト上で開催され、活動動画で参加をしました。

ベネッセこども基金の助成による事業は「外国につながる子どもたちの日本語学習を支える教室のオンライン化事業」の1年目でした。申請した3つの重点実行項目については複数のチームで活動しました。地球っ子教室の支援者のみならず、日本語教室のメンバーにも参加を呼びかけ、NPOの組織力としても意義ある活動になっています。また、つながりのある外部の協力のおかげで、技術的にも助けられています。完成した教材は、広く一般公開を予定しています。

このように事業活動が多岐にわたった一年でした。長年、収益事業として NPO の活動を支えてきた日本語教室は、オンラインレッスン移行後も共感と信頼を得て継続率が高く、企業レッスンや海外在住者からの依頼が増えたことから、当期の経常収支は黒字となりました。コロナ禍の一年でしたが、だからこそ得られた新たなつながりや試みにより、成果の多い一年でもありました。

II. 事業の成果

日本語教室では、1年間で48名、18の国と地域の学習者が日本語を学びました。新規学習者は18名、法人向けレッスンは9組11名でした。1年間の総学習時間数は1863.5時間とほぼコロナ禍前の水準に回復しました。新規入国者は限られているものの初級から上級まで様々なレッスンが行われました。日本語教師の登録は7名増え39名となり、22名がオンラインレッスンを担当しています。教師対象の勉強会は計13回行い、毎回10名以上、時には20名以上の参加がありました。日本語能力試験(JLPT)は7月、12月の2回実施され、16名が受験し10名が合格しました。

地球っ子教室では、土曜教室は4月10日から3月12日まで計37回、対面とオンラインで同時開催しました(時間帯は、対面教室は13:15~14:30、オンライン教室は13:30~14:30)。夏休み教室は7月に3日間、対面とオンラインの両教室を開催しましたが、8月は緊急事態宣言が発出されたためオンライン教室のみ開催しました。年間の登録子ども数は45名で、小学生32名・中学生13名でした。子どもたちがつながる国は、多い順に中国・アメリカ・台湾・カナダ・ブラジル・タイ・日本・ウズベキスタン・ネパール・オランダでした。土曜教室の延べ参加人数は、子どもは490名で前年比220%、支援者は510名で前年比160%でした。今年度の登録支援者数は42名で、うち9名が新参加でした。社会人30名、大学生11名、高校生1名でしたが、1日だけ参加した支援者を入れると、さらに増えることになります。教室活動としての内部イベント「漢字王決定戦」は計2回、10月(参加19名)と3月(参加15名)にハイブリッド開催しました。

多文化交流事業では、12月の寄付月間は今年もオンラインでイベント「漢字王決定戦」を開催しました。参加者は計28名で、海外ではメキシコ・ニカラグア・グアテマラ・アメリカからの参加もありました。恒例の「かながわ市民活動フェア」は年明け1~3月に、今年もウェブサイトでの開催となりました。地球学校主催の会員交流会は6月(参加者31名)と1月(参加者28名)に、日本語教室主催のイベントは8月(参加者8名)と1月(参加者10名)に開催しました。

ベネッセこども基金の助成による事業では3つの重点実行項目において、計7つのプロジェクトを実施しました。「スキルアップ講座」(計6回・2コース)には会員・協力者の参加が約20名あり、オンライン手引書を完成しました。「オンライン学習教材」では11名が4つのチームに分かれてオンライン遊びの教材を形にしました。「子どもの発達理解講座」は計2回、外部講師を招いて開催し、各回約30名の参加がありました。「やさしい日本語」教材では、7名の協力者により、3つの物語を各2種リライトし計6作完成しました。すべて著作権に配慮したオリジナルの「物語のイラスト」を3名の協力者に依頼しました。「漢字王決定戦の教材」では4名の協力により、年2回の内部イベント漢字王決定戦の問題作成と進行を行いました。「アプリ漢字王決定戦」では、外部より6名の協力を得て、既存の 안드로이드版アプリを、WEB版で新ゲームとして1つ公開できました。

Ⅲ 事業内容

1. 日本語教室に関する事業

- ・内容 日本語上達を希望する学習者への日本語指導、日本語学習支援
- ・日時 通年 オンラインレッスン 1863.5 時間
- ・場所 かながわ県民センター、オンライン
- ・従事者人員 日本語教師資格を有する正会員 39 名
- ・受益対象者 日本語学習を希望する母語が日本語ではない学習者 48 名
- ・支出額 2,526,704 円

2. 地球っ子教室に関する事業（外国人児童生徒への支援）

- ・内容 外国につながる子どもたちの学びを支える教室の開催
- ・日時 通年の土曜教室（37 回）・夏休み教室（5 日間）・春休み教室（2 日間）
漢字王決定戦（2 回）、運営委員会（3 回）、内部研修（3 回）
- ・場所 かながわ県民センター、オンライン
- ・従事者人員 会員・支援者（一般・大学生） 延べ 510 名
外部運営委員 計 3 名
- ・受益対象者 外国人児童・生徒 延べ 490 名
- ・支出額 864,295 円

3. 多文化交流にする事業

- ・内容 寄付月間イベント、学習者との交流イベント、会員交流会ほか
- ・日時 通年 全 5 回
- ・場所 オンライン、かながわ国際ファンクラブ、kosha33 ライフデザインラボ
- ・従事者人員 担当スタッフ 7 名
- ・受益対象者 会員、各教室の学習者・子ども達、日本在住外国人、日本人 延べ 101 名
- ・支出額 25,100 円

4. ベネッセこども基金の助成による事業（3 年計画の 1 年目）

- ・内容 外国につながる子どもたちの日本語学習を支える教室のオンライン化事業
①支援者向け PC スキルアップ講座とオンライン学習教材整理
②オンライン音読用「ものがたり」教材作成
③既存のゲーム漢字王決定戦の Web 公開とマニュアル作成
- ・日時 通年
- ・場所 オンライン、かながわ県民センター（スキルアップ講座の一部）
- ・従事者人員 会員・支援者・外部専門家
- ・受益対象者 地球っ子教室及び一般の外国人児童生徒とその支援者
- ・支出額 2,699,807 円